



上/攻守の柱を担うのが  
中学2年のMF伊藤みなみ。  
チームが一体となったサ  
ッカーで勝利を狙う  
左/「今後はマネジメント  
にも力を入れたい」という藤原  
三十郎監督。クラブのさらなる  
発展に力を尽くす



創設4年目を迎えたFCフォルタレオン。岩手、そして日本を代表する育  
成クラブへの挑戦はこれからも続く

# FCフォルタレオン FC Fortaleon

原三十郎監督。当初は、釜石市、遠野市、大槌町、山田町のメンバーだったが、今では内陸地域からもメンバーが集結。中学年代を中心に、高校生、社会人を含めて30名近い。なでしこ、たちが所属している。

主にチームの練習は、選手が集まれる週末の土日に実施。時間は限られるが、遠野市の国体記念公園市民サッカー場、釜石市の松倉グラウンドといった人工芝のピッチで活動しており、トレーニング環境は抜群だ。また、県リーグをはじめ、クラブの公式戦は年間およそ20試合以上を数える。強豪チームとの真剣勝負がたくさん経験できるのも、チームにとっては間違いなくプラスとなっている。FCフォルタレオンが目指すスタイルは、全員攻撃、全員守備といった、チームが一体となって戦うサッカー。

「ずば抜けた選手がいなくても、みんなが共通意識を持つことで相手を上回ることができる。それがサッカーのいちばんの面白さです。技術も必要だが、それよりも大切なのがオフザボールの意識。そこをしっかり身につければ、より強いチームが出来ると思います」と話す藤原監督。1人がボールを持ったとき、あるいはボールにチャレンジしたときに、2人目、3人目が運動してポジションニングをする。一つの目的に対し、ピッチに立った全員が考えながら、同じ方向を向いてプレーすることを、チーム全体に浸透させたいという。もちろん勝負にはこだわるが、それよりも個人のサッカーIQを磨く。選手たちの将来を見据えた指導を、藤原監督は徹底して行っている。

そんな新進気鋭のチームだが、実はFCフォルタレオンでは、地域内外の企業から協賛を募り、その資金をチームの活動費としている。そのため、選手の負担が極めて少ないことも他のチームにはない特徴だ。今後はU-12カテゴリーの開設も視野に入れているという藤原監督。頭の中では、こんな将来設計図も描いている。

「近い将来は、力をつけてもっともっと上のリーグにも参戦したい。クラブが成長すれば、沿岸の子どもたちはずっと地元でサッカーを続けられるし、内陸などの県内各地からも人が集まってくるかもしれない」

クラブ創設から4年目、土台づくりは着々と進行中だ。この先チームがどんな発展を遂げるのか、今から楽しみでならない。岩手の沿岸から、日本に誇れる育成クラブを目指して、FCフォルタレオンの挑戦は、まだまだ始まったばかりである。

年々、競技人口が拡大している日本の女子サッカー。しかし、地方における環境はまだまだ整備されているとはいえない。とりわけ課題となっているのが、U-15の中学年代。小学年代（U-12）は男子に交じり地元のスポーツ少年団でプレーできるが、部活動に移行する中学年代では、サッカーができる場所が減少。中でも岩手においては、その受け皿となるクラブチームが内陸にしか存在せず、沿岸地区の女子中学生にとってはサッカーを続けたくても続けにくいという悩みがあった。

そんな現状を打破しようと立ち上がったのが、2016年に創設されたFCフォルタレオンだ。「沿岸でサッカーをしている女子選手は、少ないようで意外とたくさんいるんです。女子同士が本気で戦って、勝ったら喜び、負けたら泣く。それができる場所を、沿岸でも作ってあげたかった。そう語るのには、クラブの旗揚げに尽力した藤

注目チーム紹介  
WOMENS  
LEAGUE

THE  
BIRTH OF  
A NEW AGE

岩手沿岸発、日本に  
誇れる育成クラブへ